

# カトリック 仙台教区報

2012年5月6日 No.205  
発行  
カトリック仙台司教区  
〒980-0014  
仙台市青葉区本町 1-2-12  
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任 広報委員会  
URL http://sendai.catholic.jp/

## 主の復活を告げ知らせよう アレルヤ!

### 聖香油ミサ 派遣された司祭も共に

4月4日(聖水)に行われた聖香油ミサは、司教が司教区内の司祭と共に共同司式して、聖香油と、病者のための油、洗礼志願者の油を祝別するミサで、司教と司祭の深い結びつきを示す。司教は、説教の中で司祭がその務めに誠実であるようにと、司祭として約束したことを公に更新する。当日は、大風のため交通機関が乱れたことから、教区司祭の参列が例年より少なかったが、大震災後、他教区や修道会から派遣された司祭も参加した。

#### 【聖香油ミサの司教説教から】

昨年3月11日の東日本大震災という大変な災害から一年以上経ちました。私たちは、仙台教区「新しい創造」基本計画「の二本の柱に沿って、日本の全教会からの支援を得ながら、被災された方々に寄り添い、共にありたいと祈り、できる限り働いてきました。ご協力ありがとうございます。これからも、この大災害で亡くなられた方々の安息を祈り、また、ご家族をなくされ、家・財産や職業を失うなどして大変な辛酸を嘗めておられる方々を思い、神の憐れみと助けを祈り求めながら、心を一つにして推進していきましょう。ただ、復興はただだけ進んだでしょうか。被災された方々の苦しみはどれだけ癒されているでしょうか。今、時の経過とともに、新たな危機も迫ってきているような気がします。私たちは改めて、信仰という土台の上に、すなわち、「散らされている神の子たちを一つに集めるための死(ヨハネ11・52)」を遂げられた主イエス・キリスト



ミサ後司教を囲んで記念撮影

に結ばれた者として、「わたしがあなたたちを愛したように、互いに愛し合いなさい」とのお言葉を守って生きる者であり続けることを選び取りたいと思います。

司教が、教区内全地域の司祭方と共同司式してささげるこのミサは、司教と司祭を囲む司祭団の一致を表すものであります。同じ信仰の恵みのうちに、果たすようにと与えられた同じ使命を喜び受け、心を一つにして共に働くものである、という一致です。

司祭の皆様、共同司式によって聖香油のミサをささげるこの日は、主・キリストがその司祭職を使徒に与え、私たちにも与えてくださったことを記念する日でもあります。私たちは、この典礼の中で、公に、「司祭の約束の更新」を行います。私たち一人ひとりが、何年か何十年前に、決断し、司祭叙階をうけるときに、司教と司祭方、及び、長い問物心両面で支え続けてくださり叙階式に参列してくださった信徒・修道者の皆さんの前で、自分をささげつくすことを神に対してはつきりと約束した、その約束を更新するのです。この聖香油ミサの叙唱では、「司祭はキリストの名によって人々のために超越の食事を整えて救いのいけにえをささげ、言葉と秘跡によって神の民を力づけるように召されています。また、司祭は、神のため、人々のために自らを渡して、キリストに従い、たゆみなく信仰と愛の証しを立てるよう選ばれています」とうたっています。確かにこれが私たち司祭の生き方であり、キリストに倣う「仕えらるるためではなく、仕えるため」の生き方です。

### 生命の泉

ローマ教皇の御復活のメッセージは「イエスが復活された。真に新しいことが起こったのです。そのことは人類と世界の状態を変えた(カトリック新聞4/15)と、また世界は「光と闇、真理と偽り、希望と絶望が戦っている」という具体的な事実と言及せずに、言わざるを得ない立場からの発言であるにしても示唆に富んでいる。この世の全ての不幸の原因は「信頼」の代わりに他の価値に置き換えたことによって引き起こされている」と言い換えてもよい。自爆テロの中東の人々はこの世で自分の命を犠牲にしても大国に帰還できる、と教えられている。経済的な豊かさあっての人間らしさではないか、と想って日々活動する人はどこかで経済格差で苦しむ人が出てくる現実には目をつぶる。原発が危険でも今の利便な生活から取り除けるものではないと考える人は震災から僅か1年で増えてきた。子供を育てることも親の世話をする苦勞も出来れば最小限に出来ないか、と考える人は多い。弱小民族と思われないようにと核兵器の開発をする国は一国にとどまらない。他方先進数カ国は持つてもいい、というダブルスタンダードがどうして許せようか。子供は出来るだけ早くから仕込まなければ競争社会に勝ち残れない、と考える人は子どもがうちに秘めている力の開花を待つてはいられない。情報が瞬時に取得できる便利さは夫したり努力したりせずに得られる人間を生んだためでなく、キリストと共に十字架につけられ(ガラ2・19)ることによってキリストと共に生きることこそが生の意味を問う直し、キリストの復活はこの世との連続した生であると知るこ

病者のための油・洗礼志願者の油・聖香油



これからの仙台教区を考える

司教 平賀徹夫

前号(3月25日付)の仙台教区報3面で概要が紹介されていましたが、これからの仙台教区を考えるにあたり、2月19日付の文書でわたくしは教区を12の地区に分ける地区制という形をとりたいと提案しました。その第一のねらいは、司祭の数が少なくなってきた現在、「司祭の派遣は小教区への派遣ではなくその地区への派遣となる」という意識を、司祭の皆さんも教区の信徒・修道者の皆さんにも持っていただけたら良い、ということにありました。これまで一人の司祭が複数の教会(小教区)を担当するという形の派遣も多くあり、そこではその複数の教会間での交流・協力が生まれ、深められてきたという良いところが見えました。そうして培われ、深められてきた交流・協力の姿勢はこれからも教区のあり方の土台となりますし、すべきものです。ただ、その交流・協力は、司祭の仕事や時間の都合に合わせ、また、司祭からの提案によってなされてきた、という意味合いも強かった面もあるのではないのでしょうか。司祭の人事異動があるごとにそれまでの交流・協力が途切れたり低調になるなどの事態も起こったりしました。これからの教区を考えるにあたっては、より広い地区という視野のもとに、司祭個人の考えや主導によるというよりも、地区内の司祭・信徒・修道者互いの発案や合意を見ながらの方針をもって進みたい。文字通り「わたしたちは主において一つ」を固く意識し、作りあげながら、主の死と復活を共にあかしすることを目指す共同体の仙台教区にしていきたいと思ひます。それも、「仙台教区46、45」計画の一層の推進に努めながら。



4月4日(聖水曜日)、カテドラル(元寺小路教会)で行われたミサは、「聖香油のミサ」と呼ばれる。ミサ中、司教によって油(オリブ油)が聖香油に聖別され、また洗礼志願者のための油と病者のための油の祝福も行われることによる呼び名。通常、聖水曜日の午前中に行われるが、仙台教区では例年、聖水曜日の午後に行われている。聖別・祝福される油の意味と役割は次の通り。

【病者のための油】写真右白布 ミサ中祝福される最初の油。重い病気を患っている人は、この油によって、力強く病苦に耐えてこれと戦うことができるよう、また罪のゆるしをうけることができる。

【聖香油】写真左赤布 司教は油に香料(バルサム)を混ぜて息を吹きかけ「写真」、司祭団が香油に向けて右手を伸べる中で祈りを唱えて香油を聖別する。聖香油は洗礼式、堅信式、叙階式で、また新しい教会堂や祭壇の奉献式でも用いられる。人に塗られるときそれは、洗礼によってキリストの過越の神秘に結ばれてキリストとともに死に、ともに葬られ、ともに復活したキリスト信者が、キリストの王的・預言者的祭司職にあずかっていることを示す。



【洗礼志願者のための油】 写真中央水色布 洗礼志願者はこの油を塗られることにより、悪霊と罪を放棄することができるよう強められる。

これら油は小分けされて教区内全小教区に配られ、1年間用いられることになる。



認定を受けて 仙台教区神学生 佐藤 彰洋 主の復活おめでとうございませう。

3月25日 (四旬節第5主日)に平賀司教様から、助祭・司祭候補者

助祭・司祭候補者認定を受けました。仙台教区の神学生として2年間、哲学を勉強してきましたが、この2年間の生活は司教様、神父様、信徒の皆様を支えられたおかげで続けてこられました。これからもどうか支えてください。

昨年3月11日に起きた東日本大震災のときに私は仙台にいました。地震から数日間は何をすのの良かったのだろうかと考えていました。しかし、行動には移せませんでした。それが、自己中心的な考えだったと反省し、その後

司教日程 5月・6月

- 5・8 司教評 定例会
5・8 教区司祭団・役員会
10 司教委員会
10 部落差別人権委・定例会
11 久慈教会(トマ師送別会)
11 ハンセン病市民学会
12 男子修道会・宣教会
13 管区長会議
16 女子総長・管区長会議
22 聖霊降臨祭
27 教区司祭団月例会
28 仙台教区サポーター会議
29 仙台修女連
6・2 司教評・役、司祭団・役
5 監査会
8 仙台教区・青森県大会(八戸)
10 大震災復興支援 オールジャパン会議
11 北仙台教会堅信式
17 財政評
18 難民移住移動者委・シンポジウム
19 23 司教総会
23 月例会、責任役員会
25 仙台白百合学園
29 塩釜に最初のボランティアベースができること知り、とにかく何か行動を起こそうと思ひ、ボランティアに参加しました。その経験の後に、長期休暇が始まると各ベイスのボランティアに参加するようになりました。その活動を通して、困っている人を放っておけないボランティアさん方との出会いを通して人に寄り添って生きていくことの素晴らしさを体験しました。

この体験を大切に、司祭への道を歩みつついたいと思ひます。

# 2012年仙台教区司祭派遣

県	小教区/地区	主任/担当 司祭	前職(前任地)
青森県	大湊・野辺地	デ・ラ・サ・マルコ・アントニオ	宮古
	黒石・五所川原 弘前	ガブリ・ジャン	
	十和田(五戸)	佐々木博	(大湊主任を解く)
	三 沢	レヴェイエ・アンドレ	
	八戸塩町	横島健二	(鮫町主任を解く)
	鮫 町	佐藤 修	花巻・盛岡地区
	浪打・本町 (松ヶ丘)	首藤正義	(野辺地主任を解く)
岩手県	一関・千厩	佐藤守也	
	大船渡 (移住者担当)	森田直樹 ハルノコ・アントニウス ギャリ・ゲストヴェオ	京都教区より派遣 大阪教区より派遣 広島教区より派遣
	遠野・釜石	舟山 亨	
	水沢・北上	高橋 昌	
	久 慈	佐藤 修	花巻・盛岡地区
	宮 古	中尾直道(主任代行)	長崎教区より派遣
	盛岡地区 四家・志家 上堂・花巻	ヴァレラ・ミゲル ホセ・モンロイ エテメ・メヌンガ・エミル・トリ ツゲル・アントニオ(協力)	グアダルペ会本部
二 戸	(盛岡地区担当司祭)		
宮城県	北仙台	ラトゥール・レイモン	(原町主任を解く)
	気仙沼・石巻 米川	会津隆司 川崎忠紀(助任)	
	仙台中央地区 一本杉・豊屋丁 西仙台・東仙台 八木山・元寺小 路・塩釜	渡邊彰宏 藤井泰定 ボルデュック・エメ ホセ・ゴンザレス 小松史朗(協力) 成井大介(協力)	東京教区より派遣
	築館・(新生園)	土井勝吾	司祭の家(療養)
	古 川	川井 啓(小教区管理者)	
	宮城県南 大河原・角田 白石・亘理	小野寺洋一	
	会津若松 喜多方・南会津	板垣 勤	
福島県	いわき (小名浜・湯本)	フォリッシュ・チェスワフ 氏家 和仁(協力)	
	郡山・二本松	リゲンザ・スタニスワフ	
	白河・(矢吹)	田中丈夫	
	須賀川		
	野田町	パヴェレット・トマス	
	原 町	狩浦正義(主任代行)	名古屋教区より派遣
	松木町・(桑折)	ヴィドムスキ・イエジ	

仙台教区本部 教区長 司教：平賀徹夫 司教総代理：小野寺洋一  
 教区事務局長：小松史朗 教区会計：小松史朗

小教区以外 司教館：梅津明生(総代理職を解く)  
 司祭の家：鷹嘴達衛 村首ステファノ  
 S D S C：成井大介(神言会より派遣)  
 出 向：和野信彦(横浜教区)  
 東 京：平田 浩 \* S D S C (仙台教区サポートセンター)

## 赴任司祭の自己紹介



「イエスは道 真理 生命」  
 パウロ・藤井泰定  
 (仙台中央地区)  
 1970年7月  
 4日、東京カテ  
 ドラルで司祭に  
 叙階されました。その時、モッ  
 トーとして選んだ聖句を数種  
 類の御絵に印刷しました。その

うちの一種類は手作りしまし  
 た。表に十字架を吹き付け  
 「道」の一文字を司祭叙階の  
 黙想中に書きました。  
 イエスこそ、歩むべき道、知  
 るべき真理、生きるべき命とし  
 て示してください。神を賛美  
 し、注がれた聖霊に導かれて、  
 イエスのみ名を伝えます。  
 【略歴】1976年4月から1  
 982年3月まで東京カトリ

ツク神学院モデラートル、19  
 88年7月から1年間ケルン  
 教区外国人司牧局、2003年  
 から今年の復活祭まで麻布教  
 会主任  
 「皆様、はじめまして」

このたび仙台教区の宮古教  
 区外  
 中尾直道  
 (宮古教会・主  
 任代行)

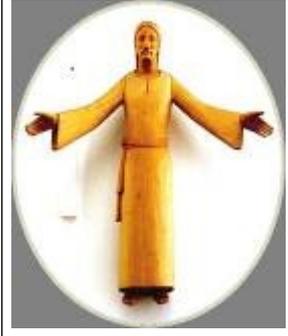


会  
 長  
 小野寺洋一  
 司祭の家(療養)

大天使ミカエル  
 中尾直道  
 (宮古教会・主  
 任代行)

会  
 長  
 小野寺洋一  
 司祭の家(療養)

\*他の派遣司祭については  
 次号で紹介します。



絆のローソク・ワッシャー



コングレガシオン・ノートルダム  
福島野田町修道院 11・12・12  
災害後に、今新たにどんな社会を、教会を創造して行くのかを、この真っ只中に私たちと共にいてくださる主に真剣に尋ねながら一つ一つ実行していきましょう。



桜の聖母小学校 11・12・5  
とても大きな「絆のローソク」には、平和を意味するハトとイエス様を意味する十字架が描かれていました。全校生で、共同祈願をしました。心をこめて神様にお祈りしました。私たちの思いが亡くなられた方々に届くといいなと思います。そして、神様が私たちに、いつも苦しんでいる人たちに寄り添い続ける力を与えてくださるといいなと思います。



聖ドミニコ修道会 原町さゆり幼稚園  
11・11・28

大震災・大津波そして原発事故という、こわい体験をし、一時はみんなバラバラになってしまいました。携帯電話で全園児の安否確認ができました。その後、長い間休園状態を強いられましたが、「さゆり通信」を発信し、絆を絶やさずつながり続けました。今は、地元に戻った13名の園児が毎日元気に喜んで通園しています。この明るくあたたかく灯るローソクの光が、私たちの前進すべき道を照らしてくださいと信じ、祈り続けたいと思います。



桜の聖母学院中学・高等学校

11・12・15

今年は、追悼ミサに中高生全員が参加し、大震災で亡くなられた方々のためにお祈りしました。「絆のローソク」を迎え仙台教区の皆さんと心を合わせてお祈りしました。一日も早く復興され、安心して暮らせますように。大きな変化を受け止めて、前向きに進む力が与えられますように。日本・世界各地から励ましのメッセージ、お祈りを頂き感謝申し上げます。引き続き、原発事故の終息のためにお祈りをお願いしま



桑折教会

11・12・11

共に頑張ろう！



松木町教会

11・12・4

被災地の皆様と共に祈り、主に信頼と賛美を歌ってきました。何回かボランティア活動を通して、苦しみの中にある皆様と連携しようと努めてきました。10月9日には南相馬の海岸で祈り、原町教会で、司教様方とのミサに参加しました。これからも、主への信仰において皆様と結ばれていきたいと願っています。



福島カトリック幼稚園 11・12・16

今日はクリスマス発表会、絆のローソクの火がキャンドルサービスとつながりました。

当たり前前の生活が当たり前でなくなった日、その中で一生懸命過ごしたお友達。一日も早く笑顔が戻りますように。

福島から避難したお友だちも新しいお友だちと共に過ごせますように。

小さな手を合わせ、お祈りしました。



野田町教会

11・12・11

幸いにも震災で教会に大きな被害はなく、聖堂のマリア像が壊れたぐらいです。しかし、放射能の影響もあり、元の生活を取り戻すために信徒一丸となり助け合っています。教区の皆様、お祈りよろしくお祈りいたします。



コングレガシオン・ノートルダム福島花園町修道院  
桜の聖母短期大学

11・12・5

主のご計画の意味を全て知ることは出来ませんが、希望と賛美の眼を主に注ぎ続けていくつもりです。



**大河原教会** 11・12・25  
 クリスマスに「絆のローソク」を灯し祈りをささげました。マリア様は、十字架のもとに立ち、御子イエス様と苦しみと共になさいました。今、私たち一人ひとりが聖母マリア様と共に、イエス様の苦しみに結ばれ、その復活にもあずかることができますように。帰れない遠くに住む方々に思いを馳せ、絆のローソクの祈りをささげます。



**角田教会** 11・12・24  
**主においてひとつ  
 希望の灯を  
 消さないように  
 生き方を変えて  
 歩み出す勇気を  
 願い求めましょう。**



**二本松カトリック幼稚園** 11・12・17  
 今日クリスマス発表会。心をつな  
 げて 絆、つながりのたいせつな  
 あたかさのうちに お祈りしまし

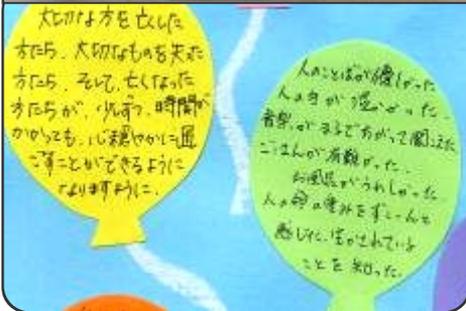
**角田カトリック幼稚園** 11・12・27



**亘理教会** 11・12・24  
 被災地にある教会として、被災された方々の悩み苦しみ、そして明日に向か  
 ったの声を、できるだけ多く発信する  
 ことができますように！被災された  
 方々一人ひとりと私たちを結ぶための  
 働き手として歩むことができたらと願  
 っています。



**二本松教会** 11・12・18  
 震災で犠牲になった方々によって、私  
 たちは生き残った者として互いに助け  
 合って生きていくことを教えられまし  
 た。福島県民にとって春はまだまだ先  
 ですが、多くの方々が支えてくださる  
 ので、明るい春が必ずやってくると信  
 じて頑張っています。



**白石教会** 11・12・25  
**いかに美しいことか  
 山々を歩き巡り、良い知らせを伝える  
 者の足は(イザヤ52・7-10)  
 主の降誕の喜びと共に「絆のローソク」  
 が届きました。クリスマスの光にのせ  
 て被災した方々の願いが、日本の世界  
 の全ての方に届きますように。**



**大河原カトリック幼稚園** 11・12・19  
 今日、私たちはみんなで絆のローソク  
 を囲みお祈りしました。  
 震災で大変な思いをされた方のため、  
 悲しんでいるお友だちのために、神様  
 に見守られすべての人がげんきになり  
 ますように、これからもお友だちのた  
 めにお祈りしていきたいと思ひます。



**亘理カトリック保育園** 11・12・28  
 \* 新しいお家が完成して早くみんなで  
 住めますように、  
 \* 悲しい気持ちでなく、楽しい気持ち  
 を持って!!  
 \* マリア様のご加護のもと一日一日歩  
 んで行くことができますように、  
 \* たくさんの方の心の支えに感謝、全  
 ての方々の心が満たされますように。

**金ヶ瀬カトリック保育園**  
 11・12・22

**きみとわたしは  
 ずっとずっと  
 なかまで**

祈りを通して勇気と希望が少しでも  
 分かち合えたらとおもいます。  
 いつかきっと心から笑える日が来る  
 ことを信じてともに進みましょう。



# 主の復活と共に受洗の喜び

## 復活祭に洗礼を受けて

ジュゼッピーナ石岡 和子

一関教会 (70代)

私たち夫婦は青森県で生まれ育ちました。今から40年前に一関市にある児童養護施設藤の園で働かせていただくことになりました。夫はそこで子どもたちの養育に専念し、たくさんの子どものたちを社会に送り出しました。そのおり、夫はスイスからいらしていた神父様から洗礼を受けました。その後健康そのものだった夫ががんのため帰天しました。76歳でした。今年で5年になります。私は夫が亡くなつてから毎週教会のごミサにあずかせていただき感じたことは、夫はひたすら子どもたちのために祈りをささげていたのだと思えるようになりました。これから

共同体の大きな喜び

今年度の復活祭は、2004年依頼8年ぶりとなる入信の秘跡が行われた。年々高齢化が進み気がかりだったところに、若いお母さんと3人のお子さんが洗礼を受けたことで教会共同体にとってこの上なくうれいし日となった。ミゲル神父の司式で行われたミサの中で洗礼式「写真」には一同大きな感動を味わった。

盛岡上堂教会

今年度の復活祭は、2004年依頼8年ぶりとなる入信の秘跡が行われた。年々高齢化が進み気がかりだったところに、若いお母さんと3人のお子さんが洗礼を受けたことで教会共同体にとってこの上なくうれいし日となった。ミゲル神父の司式で行われたミサの中で洗礼式「写真」には一同大きな感動を味わった。

ミサ後のお祝い会には、差し入

れのパウンドケーキや、持ち寄りのぼた餅、苺、漬物などたくさん御馳走が並んだ。抹茶のお点前にもあずかり、大きな喜びに包まれた一日となった。

3人の子どもを連れて教会に来るのは大変なことと思われるが、元気な子どもの声と若いお母さんの力で私たちに喜びを運んでくれることを期待している。

(田畑 健司)

さんからの「神様がお招きくださっているんですよ」という言葉を実感としてしみじみ感じました。そして洗礼を受け、聖体を拝領して、まさに主が私の中にいらっしやうたことを今心から嬉しく思います。

これからは、霊名として頂いた小さき花の聖テレジアのようにほんの小さなことでも神様のお役に立てるようにと日々神様に感謝して過ごしていきたいと思えます。

元寺小路教会 (20代)

卒業後はカトリックから離れていましたが、一昨年のクリスマスに、10年振りにミサにあずかりました。

大きなお恵み

私はとても緊張しており、何とも言い難い気持ちで心はいっぱいでした。洗礼式が丁寧に進む中で、なぜか自分がとてもガッツな人間に思えてしょうがなく、恥ずかしかった。どうしてこんなに素晴らしい時にこのように思ってしまったのかな?...そんな私の心を聖水が一瞬にして鎮めて下さった。本主にこの瞬間に心も体も落ち着いた。

とても懐かしくて、また勉強してみたいと思いました。

教会に通う中で、たくさんの気づきがありました。

家族・親戚を次々と亡くして、必要なお恵みはすべて与えられていたこと、どんな時でも神様が共にいてくださったことに気づいて、受洗しようと決めました。

今年6月には結婚も控えています。20代の最後に、この上ない大きなお恵みを頂き、感謝で胸がいっぱいです。

マリヤ・アナスタシア 大野文子

いわき教会 (30代)

私はとても緊張しており、何とも言い難い気持ちで心はいっぱいでした。洗礼式が丁寧に進む中で、なぜか自分がとてもガッツな人間に思えてしょうがなく、恥ずかしかった。どうしてこんなに素晴らしい時にこのように思ってしまったのかな?...そんな私の心を聖水が一瞬にして鎮めて下さった。本主にこの瞬間に心も体も落ち着いた。

その夜、心が軽くなって嬉しくて、何だかすくすくしたい感じがした。一番大切なことをもう一度思い起こし、この喜びを忘れることな

く、洗礼へと導かれたことに心から感謝し、新しい命を精一杯生きてきたい。

小さき花の聖テレジア

元寺小路教会 (50代)

カトリックとの出会いは、幼稚園から。毎朝マリヤ様にお祈りしてから一日が始まり、そこからずっとミサに参加するようになった。ごミサに参加するようになったのは、大病や身内の試練、友人の苦しみが自然と教会へ足を運ばせました。ごミサに参加することで、私はどんなにほっとした気持ちになったことでしょうか。そして、聖書の勉強会では聖書を学ぶ喜びを知りました。教会を訪れることは喜びであり、心の安らぎです。たくさんさんの困難を神様のお恵みとして受け入れ、神様と共にこのりの人生を送れますよう願っています。



洗礼後の初聖体

いわき教会

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと思います。ささやかな生活の中で幸せや希望が見えればと願っています。

最愛の息子が突然死、青い鳥が去った後の不安や悲しみに陥った時が受洗のきっかけでした。

洗礼後に授かった新たな一筋の

一本杉教会 (60代)

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと思います。ささやかな生活の中で幸せや希望が見えればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

光を、地の塩世の光と受け止め、神様に視点を置いた生き方が出来ればと願っています。

クリストファー 川崎 正雄

本町教会 (60代)

「ジジが洗礼を受けた」

私と教会の関わりは、家内を教会に送り迎えることから始まりました。以来28年、やがて教会の行事を手伝うようになり、定年後からは一緒にミサにあずかるようになっておりました。

子どもも孫もみな洗礼を受けており、私だけが取り残された状況であった昨年の春、神父様から「勉強しませんか?」とお誘いがあり即座に「はい」と返事をしておりました。私の勉強承諾は、家内にとっても、子どもたちにとっても、まさに青天の霹靂!であつたようです。

迎えた洗礼式は、厳粛な中で執り行われ、深く感動致しました。

お陰様でクリストファーの洗礼名を授かり、ようやく皆さんの足元にたどり着くことが出来ました。今後は一人の信者として恥じない行いを心がけ、更に精進を重ねる所存でありますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ベルナデッタ 武蔵 恵子

四ツ家教会 (70代)

「受洗まで導いてくれた人」

私がカトリックを知ったのは高校生の時、公教要理を勉強しましたが、洗礼を受けないまま遠ざかりました。しかし時が過ぎて私の心は教会への思いが消えることはありませんでした。時が経つにつれキリスト教について深く知りたいと思つたようになりました。

2010年の復活祭のミサに参

列して、教えを講ずることを決心し

ミゲル神父様をお願いしました。翌年からは、Sr.平井にご指導を頂きました。2012年の復活祭に向け、私の心は確信となりました。長期にわたりご指導くださったお二人に心から感謝申し上げます。

浪打教会 (80代)

復活祭前夜、首藤神父様はじめ多くの信徒の前でめでたく洗礼を受け、身も心も清められ、結婚式に次ぐ人生の転換口で本来なら赤飯を炊いて記念すべきところ、独り身でもあり妻の祭壇に報告した次第です。毎年お盆を迎え墓参するたびに今度は受洗して同じ墓に入りたいと誓つてくるがその約束が実現できて安心の心境です。



洗礼式 元寺小路教会

パウロの霊芝を頂き、聖人伝を読むとイエス様の信頼が強かった方で驚いている次第です。

今後、信徒の一人として『絆を大切に努力したい』と考えております。

十字架の聖ヨハネ 齋藤 俊夫

浪打教会 (50代)

「長い、長い時間」

およそ50年前、カトリックの幼稚園に通い、お祈りして聖書の絵本を見たり、イースターエッグを手に入れたり、希望の光」に感づられました。

ア様は身近にいてくださいました。

やがて教会から足も遠のき月日は過ぎ、27年前に知り合いの妻となつた女性はカトリック信者でした。教会で式を挙げ、授かった2人の息子たちはカトリックの幼稚園に通つて洗礼を受けました。妻の信仰を理解しながらも「仏教家の長男」ということもあり一歩進めない私でした。

数年前のそんなある日の朝、何気なく仰ぎ見た青空: その時はつきりと聞こえ: 感じました。まだ気付かないのか: まだ来ないのか: もしかして気のせい? いいえ、その時の様子は絵画のよう心に残っています。

そして、心待ちにしていた「洗礼」、この日を迎えることができたのは、主の御心、首藤神父様、浪打・本町教会の皆様のおかげと感謝いたします。妻にも「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。私たちは主においてひとつ: 家族、教会の皆様と信仰の道を歩める喜びを神に感謝します。神様は、本当に長い時間をかけて呼んでくださいました。

マリヤ・クララ 星野 恵美

一本杉教会 (40代)

「希望の光」

復活徹夜祭、光の祭儀で暗闇を照らすたくさんのロソクの灯、私にはこれから始まる信仰生活を照らす「希望の光」に感づられました。

「原子力の技術は未確立」  
元原発技術者「菊地洋一講演集」を読んだ。知れば知るほど心が痛みます。原発は未来のエネルギーとして必要不可欠であると洗脳されてきた優秀な若者は、かつて青春のすべてをかけて原発に取り組んだ。しかし、現場の作業を通しその危険性を肌で感じたことで、今は命がけで反対している。原子炉導入の歴史的背景には核兵器開発の野望があること、事故時の原発解体撤去は不可能に近いこと、現代技術の限界を超えたものであることなど、多くの事実を国民に隠したまま造っている。

「管理しているから安全」ということでは、原子炉の問題はすまされないことが、今や明らかになってきたのです。

地球を大事にする会 Sr.相良なるみ

入信の秘跡を受け、新しく生まれ変わり、神の子とさせていただけただけ喜びと感動で胸いっぱいです。私の霊名「クララ」には「光」という意味があります。これからの信仰生活の中で、苦しみや孤独、悲しみの中にある方々に寄り添い、少しでも明るく照らす「光」になれたらと思います。

マリヤ・テレサ 熊坂 謹子

一本杉教会 (60代)

「邂逅「カイユウ」(めぐり合い)」

神さまのお話を聞き、賛美歌に触れたいと思い一本杉教会でミサに参加し、節々のセレモニーに交わっていたとき、教会の皆さんとの交わりの中で、自分自身の評価、反省をしている。幼いころは近くのルーテル教会に通い、学校の帰りにはサレジオ教会の庭で戯れた。結婚し仙台に移り住んでから、3年前に退団するまで、24年間のボーイスカウト活動の中でマザーテレサと出会ってスカウトの誓い「神と国とに誠をつくします」の意味を理解させるため元寺小路教会を訪ねたり、野営キャンプでは「トミニヨの家」をお借りしたり、スカウトのスピーカー「日々善行」も、テレサの教えに通じるものがあると感した。

今思つて、幼いころから私には教会がついて回った。

今後もキリスト教精神に基づいて研鑽を重ねたいと考える。

私カトリックに入信する動機は、インドネシア国籍の主人と結婚したことになりました。インドネシアでは、法律で定められた宗教のいづれかに入信しなければならぬと決められています。まずは聖書を学び、その教えを理解して入信しようと思ひ、約3年半の月日が過ぎていきました。Sr.梅津のご指導で聖書の真の意味を学ぶ楽しさを感じることが出来ました。

今後は、主人と共に少しずつ聖書を学んでいきたいと思つております。

# 仙台教区「新しい創造」へのとりくみ

## 聖堂に流れる「ふるさと」の歌

松木町教会 愛の支援グループ

カトリック松木町教会では、気づいたこと、できることから始まった被災者支援活動「もてなしの傾聴 ふれあい茶の湯ポランティア」が続いている。

これは、カリタスジャパン、CTVC(カトリック東京ポランティアセンター)、東京教会管区の皆さまの「ご支援のお陰である。継続できていることに感謝し、四旬節の祈りの一つとして被災者支援活動記録写真展「共に歩もう」を、3月1日から4月6日まで教会の伝道館で一般公開した「写真」。記録写真の他、当時の地方新聞、関係資料、浪江町避難者の体験記なども展示した。



私たちは継続して支援に伺っている福島市宮代仮設住宅の浪江町民の方々にも、これまで共に歩んできた写真をご覧になって頂きたいと思い、3月26日(月)、松木町教会にご招待した。25名もの皆さまが来て下さった。初めての教会訪問だった。写真をご覧になる人、さらにその写真を撮っている人。近頃では、お隣さん同士が顔なじみ、仲良しの友、お互いに思いやる心も出来ている。笑顔にもなってきた。その変化が写真でもよくわかる。

ささやかな昼食のもてなしの後、男性お一人の方が、原発事故による避難体験を言葉で詰まらせながら語って下さった。これまでに聞くことが出来なかったこと、苦しいこと、辛いこと、悔しいこと、不安なことが私たちの心にひしひしと伝わってきた。

また、あるお母さんは「皆と居るときは、とても楽しい。でもね、家仮設に帰ると現実に戻り心配事は、すっかり考えうちまっただよみだから、このような集まりがありがたいんだ」と言われた。その後、寅さん「男はつらいよ」のDVD上映。

そして、お開きのあいさつに、「私たちがいつもお祈りしているところを、ご覧になってみませんか。よろしかったらぜひ」と

ポランティアさんたちが聖堂へ案内してくださった。すると祭壇に向かつて歌をうたいはじめられた。それは、「うさぎ追いつきの山・・・」「ふるさと」で流れた。



歌声は、静かにしずかに聖堂に流れた。どんな思いで歌われていたのだろうか。私は、皆さまの後姿を見ていて胸が熱くなった。それから、祭壇を背にして集合写真を撮り「写真」、さわやかな笑顔でお帰りになる皆さまを「平和な日が早く来ますように」「お恵みがありますように」と、思いを込めて見送った。

私たちに今できることは、笑顔を届けること。元気でいて欲しいからである。

一般公開には、延べ220余名の来場者があり、東京教区補佐司教幸田和生師にも、お忙しい中お越しいただいた。司教様はじめご来場下さった皆さまに感謝申し上げます。

カトリック松木町教会  
愛の支援グループ  
代表 鈴木キミ子

### 仙台教区「新しい創造」県大会のお知らせ

#### 仙台司教区 2012年青森県の集い

[日時] 2012年6月10日 10:00~15:00  
[場所] 八戸聖ウルスラ学院中・高等学校  
[テーマ] 常に新しい創造へ  
~主においてわたしたちはひとつ~  
[受付] 9:00~10:00  
[司教メッセージ] 「仙台教区 常に新しい創造へ」  
[講演] 「津波を超えて、闇から光へ」  
[講師] 山浦玄嗣 氏  
[ミサ] 13:00~14:30

#### 2012カトリック岩手県大会

[日時] 2012年7月16日 10:00~15:30  
[場所] 盛岡白百合学園  
[テーマ] 「さあ、また立ち上がろう!!」  
[受付] 9:30~10:00  
[司教メッセージ] [各県代表発表]  
[講話] 東京教区 岡田 武夫 大司教  
[ミサ] 14:00~  
\* 教区の皆様のご参加をお待ちしています。

### 新刊案内



教皇ベネディクト16世 自発教令  
『信仰の門』 「信仰年」開催の告示  
著者 教皇ベネディクト16世  
発行 カトリック中央協議会  
定価 1200円+税

教皇ベネディクト16世は、この自発教令を公にすることによって、「信仰年」開催を宣言されました。「信仰年」は、2012年10月11日から、2013年11月24日の約1年間です。

今年の10月11日は、第一バチカン公会議50周年に当たる日であり、「カトリック教会のカテキスム」発布20周年の記念日でもあります。そして、閉年の日は、「王であるキリストの祭日」です。

「信仰の門」は、洗礼を指しており、私たちが洗礼を受け、信仰の門をくぐった時からイエス・キリストに会う旅が始まり、死から永遠のいのちに過ぎ越すことによって終わります。

教皇様は、信仰年を実施することによって、すべての信者が確信と信頼と希望をもって、信仰告白をするようにと勧められています。この信仰告白は、ミサの中で公に口で告白することだけに留まりません。あかしと行動を含みます。

そのために、第二バチカン公会議の成果である『カトリック教会のカテキスム』を、特に、この信仰年の間、よく学ぶようにと勧められています。